

◆アストロデザイン：映像情報メディア学会「丹羽高柳賞 論文賞」を受賞 4K 240 fps 放送番組制作用カメラを試作



アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）技術本部 技師長の塚本 拓が、2024年5月31日、一般社団法人映像情報メディア学会による「丹羽高柳賞（にわたかやなぎしょう）論文賞」を受賞しました。丹羽高柳賞は、東京電機大学初代学長でファクシミリの子の親として知られる丹羽保次郎氏と、世界で最初に電子式テレビジョンの開発に成功した高柳健次郎氏の功績を記念して設立された賞です。映像情報メディアに関し優れた業績をあげた個人を表彰対象とし、

論文賞は映像情報メディア学会誌「論文」欄または英語論文誌MTAに発表された論文のうち、特に優秀なものに贈られます。受賞論文「2/3型プリズム分光4板方式による4K 240 fps 放送番組制作用カメラの開発」



は、放送番組制作用途に適した2/3型4Kカメラの実用的な性能を有したまま、フレームレート240 fpsでの撮像を可能とする方式を提案し、実際にカメラを試作し、性能評価を行ったものです。アストロデザインは試作カメラの製作と撮影実験に協力しました。

■論文の概要

表題：2/3型プリズム分光4板方式による4K 240 fps 放送番組制作用カメラの開発

Development of a 4K 240 fps Professional Video Camera Using 2/3 Type Four-CMOS Image Sensors with Color Separation Prism

著者：アストロデザイン株式会社

東京電機大学大学院 先端科学技術研究科

塚本 拓

https://www.jstage.jst.go.jp/article/itej/77/1/77_119/_article/-char/ja



◆アストロデザイン：ST 2110 対応モニタ OBM-4K IP シリーズの販売を開始



アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）は、Postium Korea Co., Ltd.（本社：韓国京畿道高陽市、以下 Postium）の4K HDR IP 入力対応液晶モニタ OBM-4K IP シリーズについて、日本国内での販売を開始。

Postium は1999年に韓国で設立されたプロフェッショナル向け放送、映画、スタジオ機器のメーカーです。アストロデザインはこれまで同社のHD 2連・3連モニタや4Kモニタを取り扱い、

放送局をはじめとする多くのお客様へ納入してきました。

今回新たに販売を開始するOBM-4K IP シリーズは、12G/6G/3G/HD-SDI×2入力の他にST 2110の入力をサポートした4K HDR 液晶モニタです。17インチ（OBM-U17IP）、24インチ（OBM-U24IP）、32インチ（OBM-U31IP）、42インチ（OBM-U42IP）の4製品をラインナップしています。

製品情報 <https://www.astrodesign.co.jp/product/obm-4kip>

OBM-U17IP Postium 製 4K17インチ液晶モニタ

2024年6月1日、485,000円（税込み）

OBM-U24IP Postium 製 4K24インチ液晶モニタ

2024年6月1日、760,000円（税込み）

OBM-U31IP Postium 製 4K32インチ液晶モニタ

2024年6月2日、750,000円（税込み）

OBM-U42IP Postium 製 4K42インチ液晶モニタ

2024年6月2日、420,000円（税込み）

アストロデザイン Private Show 2024

会期 2024年6月20日（木）、21日（金）10:00～17:00

会場 アストロデザイン本社ビル（東急池上線 雪が谷大塚駅より徒歩2分）

アストロデザイン公式 web サイトより来場事前登録

<https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20240423-7718.html>



◆ FOR-A CONNECT 2024 内覧会 展示概要

Hi-RDS (階層型 RDS)をはじめ、MoIP、クラウド、XR、イベントの各種最新ソリューションを紹介

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、来る2024年6月27日（木）・28日（金）の2日間、東京・恵比寿の本社にて「FOR-A CONNECT 2024 内覧会」を開催いたします。

FOR-A CONNECT 2024 内覧会では、Media over IP 環境やクラウド制作環境の最新機器/ソリューションを紹介するほか、LED パネル環境を使用した XR ソリューションの展示を行います。インターネット配信やイベント映像制作に活用可能なオールインワンライブシステムやポータブルビデオスイッチャーなども展示します。

また、同日程で、朋栄グループのビジュアル・グラフィックス株式会社も「VGI CONNECT 2024 内覧会」を開催します。

■ Hi-RDS (階層型 RDS) エリア

4月の2024 NAB ShowでPRODUCT of the YEARを受賞したNMOS RDSソフトウェアSOM-200RDS/RDSフィルタリングAPIオプションSOM-20RDS Plusを使用して、Hi-RDS (階層型 RDS) 環境でのリソースシェアのデモを行います。各種 MoIP 機器を共通機器リソースとして使用し、ソニー、LAWO、Matrox、Riedel Communications のブロードキャストコントローラーが管理するローカル RDS にリソースを割り当てるデモを実施するほか、1 台の機器リソースを論理的に分割して複数のブロードキャストコントローラーで利用できることを実演します。

● 展示製品: NMOS RDS ソフトウェア SOM-200RDS、RDS フィルタリング API オプション SOM-20RDS Plus、ブロードキャストコントローラー SOM-200BC

■ MoIP 関連エリア

ソフトウェアデファインド製品として、複数の機能を切り替えて使用できるマルチチャンネルプロセッサ FA-1616 と、現在開発中のソフトウェアデファインドプラットフォームを使い DSK 機能を実演します。さらに、最大32入力5出力が可能なIP対応マルチビューワー MV-3240IP を紹介します。

● 展示製品: マルチチャンネルプロセッサ FA-1616、IP 対応マルチビューワー MV-3240IP、ソフトウェアデファインド・プラットフォーム

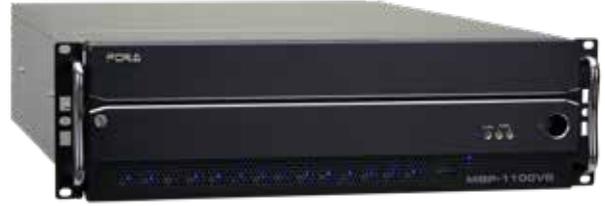
■ クラウド関連エリア

暗号化、ユーザー認証、セキュアなデータ送受信、高速画面転送技術により、安心・安全なクラウド運用を実現するクラウドコンソール ceacaa (シーカ)。この ceacaa 上で実現するキャラクタージェネレーターやバーチャルスタジオのデモを実施するほか、NDI® 出力を利用してオンプレミス環境のビデオサーバー MBP-1100VS シリーズとの連携ソリューションを紹介します。

● 展示製品: クラウドコンソール ceacaa、キャラクタージェネレーター EzV on ceacaa、バーチャルスタジオ VRCAM on ceacaa、マルチチャンネルビデオサーバー MBP-1100VS シリーズ、キャラクタージェネレーター EzV-400/410、NDI/SDI コンバーター NVP-100

■ ファイルベース / アーカイブ関連エリア

12G-SDI 対応モデル、25GbE 搭載 MoIP 対応モデルをラインアップするマルチチャンネルビデオサーバー MBP-1100VS シリーズ、MPEG-2 4:2:2 のエンコード/デコードに対応するクリップサーバー MBP-210VS を紹介。MBP-1100VS シリーズの HLS 出力素材を HLS プレイヤー IMP-150 を使用して Web ブラウザー上で確認するデモを実施。最大転送速度 300 MB/秒 (2.4 Gbps) の LTO-9 ドライブを搭載し、コンパクトな LTO-9 テープにバックアッ



MBP-1100VS

プ可能な LTO サーバー LTS-90 も紹介します。

● 展示製品: マルチチャンネルビデオサーバー MBP-1100VS シリーズ、MXF クリップサーバー MBP-210VS、LTO サーバー LTS-90、メディア管理ソフトウェア LTS-MAM、HLS プレイヤー IMP-150 (IBE)

NDI® は、Vizrt の登録商標です。

■ NDI/ イベント関連エリア

1 筐体でビデオスイッチャー、ルーティングスイッチャー、ポン出し、ライブ配信に対応するオールインワン・ライブシステム、小型 1M/E ビデオスイッチャーを紹介。Vizrt の IP 伝送方式 NDI による入出力に対応し、ベースバンドと NDI を混在させながらの運用に対応可能。1M/E ビデオスイッチャーはソフトウェアベースのバーチャルスタジオ / AR ソフトウェアと組み合わせで提案。さらに、5G 回線を複数束ねて広帯域化し、高品質な映像伝送や高速なファイル転送を可能にする Dejero 製品のほか、新たにラックマウント型を追加し、ビデオや音声、静止画をポン出しできるイベントプレイヤー IEP-500R を展示します。

● 展示製品: オールインワン・ライブシステム MFR-3100EX、小型 1M/E ビデオスイッチャー HVS-190 シリーズ、バーチャルスタジオ / AR ソフトウェア VRCAM-Lite、小型モバイルトランスミッター Dejero EnGo3 (Dejero)、イベントプレイヤー IEP-500R (IBE)

■ XR ソリューションエリア (ビジュアル・グラフィックス株式会社 共同出展)

専用トラッキングマーカーをランダムに貼り付けるだけで高精度なトラッキングを実現する StarTracker Max、および IMU (慣性計測ユニット) 搭載ステレオカメラを使用してリアルタイムでカメラ位置をトラッキングする LinkBox2 を使用して、Brainstorm Infinity Set、Mo-Sys VP Pro XR によるバーチャルプロダクションをデモ。また、バーチャルプロダクションの LED ウォールには、スペインの Alfalite 社 LED パネルを日本初披露します。さらに、グリーンバック環境と LinkBox2 に加え、新しくなったバーチャルセット背景ライブラリー eLibrary、バーチャルスタジオ / リアルタイム CG システム VRCAM-NX2 を組み合わせ、高品質な簡易バーチャルセットを実演します。

● 展示製品: カメラトラッキングシステム StarTracker Max (英 Mo-Sys Engineering 社)、カメラトラッキングシステム LinkBox2 (VGI)、アドバンスドバーチャルシステム Infinity Set (Brainstorm 社)、バーチャルプロダクションシステム VP Pro XR (英 Mo-Sys Engineering 社)、バーチャルセット背景ライブラリー eLibrary、バーチャルスタジオ / リアルタイム CG システム VRCAM-NX2

【製品に関するお問い合わせ】 株式会社朋栄 国内営業本部 TEL : 03-3446-3121 FAX : 03-3446-4451

e-mail : ad@for-a.co.jp

◆ Blackmagic Design : 山崎貴監督作品「ゴジラ -1.0」のグレーディングに DaVinci Resolve を使用

東京、日本 - 2024年5月15日(水) - Blackmagic Designはこの日、山崎貴監督の最新作で第96回アカデミー賞® 視覚効果部門を受賞した「ゴジラ -1.0」のグレーディングに、DaVinci Resolve StudioおよびDaVinci Resolve Advanced Panelが使用されたことを発表した。グレーディングはARTONE FILMのカラリスト、石山将弘氏がDaVinci Resolve Advanced Panelを使用して行った。



山崎貴監督が監督、脚本、VFXを務めた「ゴジラ -1.0」は、ゴジラ70周年記念作品として製作され、映画公開後は日本のみならず海外でも好評を博し、全世界興行収入が175億円を突破し(2024年3月末時点)、第96回アカデミー賞® 視覚効果部門も受賞した。「山崎監督とは前作の『ゴーストブック』で初めてグレーディングを担当させていただいて、その作品の制作中にゴジラのお話もいただきました」と話すのはARTONE FILMの代表取締役兼カラリストの石山将弘氏。

山崎貴監督が監督、脚本、VFXを務めた「ゴジラ -1.0」は、ゴジラ70周年記念作品として製作され、映画公開後は日本のみならず海外でも好評を博し、全世界興行収入が175億円を突破し(2024年3月末時点)、第96回アカデミー賞® 視覚効果部門も受賞した。「山崎監督とは前作の『ゴーストブック』で初めてグレーディングを担当させていただいて、その作品の制作中にゴジラのお話もいただきました」と話すのはARTONE FILMの代表取締役兼カラリストの石山将弘氏。

同作のルックの作成において石山氏はこう話す。「時代背景が第二次世界大戦直後の昭和ということで、監督からも時代感を出したいというリクエストがありました。ただ、古い時代を表現するとして



も、よくありがちな色が抜けたトーンにはしたくないということで、色はしっかりありつつも時代感を意識しながら撮影用のLUTをDaVinci Resolveで作りました。」

同作はデジタルで撮影されているが、石山氏はフィルムの持つ「厚み」を再現することで同作の時代背景の雰囲気表現した。「デジタルって全部が綺麗に映りすぎちゃっているんですよね。フィルムはそうではなくて、いい部分はものすごくいいけど、欠如している部分もある。だからデジタルの繊細な部分を壊してグラデーションを作っていくような感じでグレーディングしていきました。ハイライトににじみを作ったり柔らかくしたりとか。肌の質感を出すために、R(赤)側の輝度もかなり調整しています。輝度を落とすことで人の顔にどんどんコントラストがつくんです。時代背景を考えるとスキントーンを美しくみせる必要はないので、そんな風に雰囲気のあるものを作っていました。」

また、グレーディング時にLUTは2種類を使い分けましたという。「1つは銀座の街のシーンなどで使ったコダック系のフィルムのルックに近い、暗部にR(赤)がのったもので、これはテストグレーディングのときにできたものです。もうひとつは『わだつみ作戦』という海上でのゴジラとの最後の戦いのシーン用で、ブリーチバイパス

と言われるハイライトの色が抜けた硬い冷たいルックにして戦闘シーン緊迫感を表現しました。」と石山氏。「人物の表情をちゃんと見せたいシーンでは、目の部分のマスクを取ってトラッキングしてDaVinci Resolveのミッドトーンディテールやテクスチャーポップなどの機能を使ってディテールの調整をしています。人の目って結構大事なので、重要なシーンに関しては全カット調整していますね。映画やドラマは物語が一番大事です。監督の演出をどう表現するかを考えて、色が物語を邪魔しないように意識しながら調整しました。」

同作はポストプロダクションをACESワークフローで行った。「VFXを手がけた白組もACESについての知識が豊富で、自分も今までにDaVinci Resolveを使ったACESでのグレーディングを多くしてきたので知見があったので、今回ACESワークフローで進めようということになりました。LUTを作って全ての部署が同じ色を見られるようにしました。ACESワークフローで作業していたおかげで、急にドルビーシネマ版を作るようになったときにハイライトも暗部もクリップされずに対応できたのは良かったですね。」

石山氏は続ける。「白組チームに素材を渡すときに素材の(色の)ばらつきを整えるマッチグレーディングをしました。海のシーンは特に天候のばらつきがすごかったんです。そのままCGを作るとイメージが湧かないと思ったので、マッチグレーディングしたものをVFXのプレート出して白組チームに渡し、そこでCGを作ってもらったというワークフローでした。」



また、同作はカラー版のほかモノクロ版の「ゴジラ -1.0 マイナスカラー」も作られており、そちらも石山氏がグレーディングを担当した。モノクロ版の作成にあたり、山崎監督からはライカのモノクロ写真のような光と影のはっきりした、大事な部分だけが圧倒的に見えているイメージをリクエストされたという。

「例えば、海のシーンだとRGB(赤、緑、青)を分離して色を抜いていくんですが、R(赤)以外の輝度を落としてコントラストをつけていきました。そうすると海が真っ黒になるんです。そこに人の顔だけがぼっと出てくる。山崎さんから、この海怖いね、って言われたんです。映画を見た人が本能的に恐怖や感動を感じるものを目指してグレーディングしていたので、その体感ができるものができると思います」と石山氏は語った。



◆ Blackmagic Design : イェール大学の CCAM が、クリエイティビティの養成に Blackmagic Design を使用



465 平方メートルの敷地面積を持つイェール大学の CCAM (Center for Collaborative Arts and Media) は、クリエイティブなプロジェクトを生み出し、実験的な技術ワークフローを開発する学際的なアート・テクノロジーセンターであり、そのプロジェクトの多くは動画の理論と実践に基づいている。

CCMA は、スタジオ・フェローシップ、シンポジウム、ワークショップ、その他年間を通して継続的に行われるプログラムやイベントを通じて、同大学のコミュニティと関わっている。カリキュラムは、映像分野を含む、大学全体のクリエイティブな分野における様々なコースが集められている。

CCMA の撮影機材には、Blackmagic Pocket Cinema Camera 6K Pro および Blackmagic Pocket Cinema Camera 4K デジタルフィルムカメラ、Blackmagic Video Assist 12G 7" HDR モニター/レコーダー、編集、グレーディング、ビジュアルエフェクト (VFX)、オーディオポストプロダクション・ソフトウェアである DaVinci Resolve Studio、そして Blackmagic Cloud など、Blackmagic Design の様々な機材が採用されており、教職員や学生たちが使用している。



これらの機材は、公式のプログラム、授業、トレーニングなどで使用されており、無償で借りることも可能だ。学生たちは卒業制作や授業のプロジェクトにおいて、短編映画、ドキュメンタリー、ミュージックビデオ、パフォーマンスの記録、そして CCAM Leeds Studio に設置された Vicon Motion Capture System などの映画技術の最先端に行く実験に機材を使用している。

Blackmagic Design カメラは、スキルレベルや学部、プロジェクトに関係なく柔軟に使用できる。学生や教職員たちは、コンパクト

で信頼性が高く、シネマ品質の画が撮れるカメラに満足している。使い勝手が良いことから、長編映画の撮影など、様々なプロジェクトで使用されており、様々なレンズや内蔵 ND フィルターを使用できることが重宝されているという。

Blackmagic RAW で撮影すれば、DaVinci Resolve Studio のシームレスなワークフローと Blackmagic Cloud コラボレーションにより、ポストポストプロダクションでカメラのシネマライクなイメージを最大限に活用できる。CCAM のラボにはこのソフトウェアが備わっており、イベントの記録や、資金調達用の研究プロジェクトを紹介する短いビデオの作成にも使われている。



イェール大学では、毎学期の初めに、CCAM チームと協力者が講師を務める学際的なクリエイティブ・ワークショップの 1 日イベント、「C-CAMP」が、CCAM により開催される。これまで、モーションキャプチャー、プロジェクション・マッピング、映像編集などのワークショップが行われてきたが、CCAMP で最も人気のあるセッションのひとつが、Blackmagic Design ワorkshop である。このワークショップでは、学生たちが Blackmagic カメラを使って短いドキュメンタリーを撮影する方法を学ぶ。

Blackmagic Design 製品は、授業やプロジェクト、ワークショップの中心となっている一方で、CCAM の舞台裏でも使用されている。当初は、コロナ禍の制限から戻ったハイブリッドの教育環境の教員をサポートするために ATEM Mini Pro ライブプロダクションスイッチャーを導入したが、現在では、Blackmagic Design のカメラとともに、様々な CCAM イベントの撮影、制作、配信に使用されている。

Blackmagic Design のカメラと DaVinci Resolve Studio は、映画の実験やデモンストレーションに使用されるだけでなく、主要なプロジェクトから生まれたドキュメンタリーにも使用されており、そのすべてが CCAM シンポジウムで上映される。また、カメラと ATEM Mini Pro は、マルチカム撮影やライブプロダクションワークフローにも使用されている。



◆ケンコープロフェッショナルイメージング：FXLION 安全と信頼の大容量 V マウントバッテリー「BP 7S500」「BP HP600」受注 開始のご案内

株式会社 ケンコープロフェッショナルイメージング（代表取締役社長：山中徹 は、映像撮影の現場を支える FXLION（エフエックスライオン）の大容量 V マウントバッテリー「BP 7S500」26V 仕様）および「BP HP 600」（14.4V 仕様）の受注を、2024年5月22日より開始します。



左側オレンジが「BP 7S500」、右側ブルーが「BP HP600」

■製品特徴

BP7S500 26V、489Wh の大容量。最大出力 20A で 500W 相当の機器への給電ができます。

BPHP600 14.4V、559Wh の大容量。最大出力 30A で 300W 相当の機器への給電ができます。

共通 D タップコネクタを 2 系統配しており、同時に他のデバイスへの給電が行えます。また 5 レベル LED インジケータによりバッテリー状態を容易に確認することができます。

高性能インテリジェント保護チップを搭載。過充電や過放電、温度変動、過電流などを防止するとともに、ショート防止回路設計となっていますので、安心してお使いいただけます。

強化した端子部や特殊素材のバッテリーシェル、外部のプロテクト素材が高い耐久性を実現しています。

■仕様

| | BP7S500 | BPHP600 |
|---------|--------------------------|-------------------------|
| 容量 | 19.4Ah/489Wh | 38.8Ah/559Wh |
| 電圧 | 25.2V (定格)、29.4V (フル充電時) | 14.4V |
| バッテリー出力 | 25.2V/20A (500W) | 30A/400W (最大) |
| D タップ出力 | 25.2V/10A | 14.4V/10A (最大) |
| 防塵防水性能 | IP54 | |
| サイズ・重量 | 162 × 105 × 106mm/2506g | 162 × 105 × 106mm/2784g |

■商品名・価格（税別・JAN コード）

BP7S500 103,000 円 4962420391679

BPHP600 112,000 円 4962420391662

■受注 開始 20 24 年 5 月 22 日

◆ケンコープロフェッショナルイメージング：FXLION バイボルテージ仕様の V マウントバッテリー「BP- BV200 300」受注 開始のご案内

株式会社 ケンコープロフェッショナルイメージング（代表取締役社長：山中徹 は、電圧 切替が可能な FXLION（エフエックスライオン）のバイボルテージ V マウントバッテリー「BP BV200/300」の受注を、2024年5月22日より開始します。



中央背面写真 から 左 側は「BP BV200」、右側は「BP BV300」

■製品特徴

簡単な操作で 14.4V と 28.8V を切替可能なバイボルテージ仕様の V マウントバッテリーです。

複数の電圧レベルが必要な機器類を活用できます。

容量別に「BP BV200」「BP BV300」の 2 種ラインアップ。「BP BV200」は 14.4V 時 13.6Ah/196Wh、28.8V 時 6.8Ah/196Wh、「BP BV300」は 14.4V 時 20.4Ah/293Wh、28.8V 時 10.2Ah/293Wh。

V マウント入出力の他、USB C による入出力、D タップ出力×2、USB A 出力など、多彩なコネクタを配しています。

加熱、過充電、過放電、過電流を防止する保護回路を内蔵。安全面にも配慮した構造になっています。ディスプレイには充電時間、サイクル、容量など必要情報が表示されます。

■仕様

| | BP-BV200 | BP-BV300 |
|-----------|--|--|
| 容量 | 14.4V=13.6Ah/196Wh 28.8V=6.8Ah/196Wh | 14.4V=20.4Ah/293Wh 28.8V=10.2Ah/293Wh |
| 電圧 | 14.4V/28.8V | |
| V マウント入出力 | ● 14.4V 250W/18A ● 28.8V 250W/10A | |
| D タップ出力 | ● 16V/4A 64W/最大 /28.8V モード時 ● 14.4V/10A 144W/最大 /14.4V モード時 | |
| USB-A 出力 | 5V/2A (最大 10W) | |
| USB-C 入出力 | 5 ~ 20V/3A (最大 60W/14.4V モード時) | |
| サイズ・重量 | 154 × 100 × 68.5mm/1195g | 154 × 100 × 87mm/1650g |

■商品名・価格（税別・JAN コード）

BP-BV200 112,000 円 496 2420391709

BP-BV300 123,000 円 496 2420391686

■受注 開始 20 24 年 5 月 22 日

問い合わせ先：

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング

〒164 0001 東京都中野区中野 5 68 10 KT 中野ビル 3F

TEL 03 6840 3622 FAX 03 6840 3861

URL <http://www.kenko-pi.co.jp>